

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702818		
法人名	株式会社 シダー		
事業所名	あおぞらの里 グループホーム 黒崎		
所在地	〒806-0051 福岡県北九州市八幡西区東鳴水三丁目6番1号 Tel 093-642-1571		
自己評価作成日	平成30年09月19日	評価結果確定日	平成30年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成30年11月09日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①入居者様の日々の様子を、近況報告や写真入りのお便りと一緒に、ご家族様に毎月お送りしています。ご家族さまとの交流の場でもある運営推進会議にも参加して頂き、今後のケア等についても一緒に考えています。</p> <p>②出来るだけ長く、元気に生き生きとした生活が出来るように、ご自分で出来る事はして頂き、自立支援を目指しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「あおぞらの里 グループホーム黒崎」は、開設14年目(新築移転して7年)を迎える、デイサービス併設の1ユニット(定員9名)の事業所である。法人の取り組みとして美化活動に力を入れ、感染症防止や消臭対策に努め、清潔な環境を整えている。おもてなしの心を大切に、職員の接客教育を行い、訪れやすい雰囲気や家族の面会も多い。近隣の協力医療機関への定期受診を管理者が中心となっており、緊急時には往診で対応可能な安心の医療体制である。月2回、利用者のリクエストに応じて手作りの食事を提供し、週1回のおやつ作りと併せ、食べることを楽しめるよう支援している。働きやすい職場環境の下で職員が定着し、それぞれの特技を活かした関わりで利用者の笑顔を引き出し、家族の安心に繋げ、「ここに入居して良かった」と思ってもらえるホームを目指し、日々チームで取り組んでいる、「あおぞらの里 グループホーム 黒崎」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに掲示しています。尚社内外での勉強会や研修等で自分達のケアを振り返るようにしております。	理念をフロアの見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが常に目に触れる事で理念を共有している。勉強会や会議等の機会に、理念に沿ったサービスを提供出来ているかを振り返り、利用者がその方らしい生活が送れるよう、「寄り添う」ケアを目指し取り組んでいる。	理念を唱和するなど、定期的に理念を確認する事で、職員間の意識づけを行い、理念を共有し実践に繋げていく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の行事等には積極的に参加しております。日常では散歩など交流を図る機会を作るようにしております。また、近隣の小学生の施設見学も受け入れております。	ホーム周辺を散歩する時には、挨拶を心掛けて会話に繋げ、地域の方との関係作りに努めている。運営推進会議の委員でもある町内会会長から情報を得て、地域の祭り(黒崎祇園祭・宿場祭り)見物やどんど焼きを見に出かけている。また、小学生の見学を、毎年受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会で入居者様と接して頂くことで認知症について少しでもご理解を頂けるよう努めております。介護されている地域の方から、ご相談頂く事もありました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々で必要な報告を行っております。運営推進会議の中では積極的に発言して下さる方が少ない為、アンケートや交流会にて意見交換できるように努めております。	運営推進会議は、利用者、家族、町内会会長、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。研修や行事の報告に加え、火災予防について等、その時々議題について資料を配って話し合っている。出された意見をサービスの向上に活かしている。	地域からの参加者が少ないため、民生委員や市民センター館長等、外部の委員の増員に努め、情報交換しながら開かれたホームを目指していく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携については、運営推進会議に出席して頂き意見交換を行っております。定期的に窓口にも出向き関係構築に努めています。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状や取り組みを伝え、情報交換を行い、協力体制を築いている。管理者は、行政窓口空き状況や事故等の報告を行い、疑問点があれば相談し、連携を図っている。また、グループホーム協議会に参加して、意見や情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に開催する事で全職員が正しく理解できるように努めております。玄関は電子錠により施錠されておりますが、ご本人の意思により外出出来るように取り組んでいます。	身体拘束適正化の指針を作成し、委員会を定期的に開催している。社内や事業所内でも定期的に勉強会を開催し、禁止行為の具体的な事例の正しい理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会を毎年開催しており、日々の言動について振り返りながら防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のパンフレットを用いて職員の勉強会を実施しております。入居者様で権利擁護の制度が必要となれば支援できるよう努めております。ただし、実際に支援した事は現在のところありません。	権利擁護の制度の資料やパンフレットを用意して勉強会を実施し、職員が制度の内容について学ぶ機会を設けている。必要時には、制度の内容を説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らないように取り組んでいる。現在、制度活用の利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて契約内容等をご説明させて頂き、ご納得されたうえで契約を締結しております。変更時には運営推進会議の場もしくは個別にご説明させて頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が比較的多い為、その時にご意見を伺うよう努めております。	少なくとも月1回は家族の面会があり、運営推進会議にも3家族の参加がある。それらの機会に家族とのコミュニケーションに努め、思いや意向を把握している。また、些細なことでも電話で連絡、報告を行い、信頼関係を築いている。ホーム便りと個別の近況報告を毎月送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会等で職員の意見や考えを確認しております。個別に面談をして確認することもございます。	毎月、日勤帯の職員が多くいる時間帯に職員会議を開催し、オープンで話しやすい雰囲気の下で職員の意見や要望、気になる事等を話し合い、解決に向けて取り組んでいる。また、管理者は、日常業務の中で、職員と話す機会が多くあり、その都度提案や相談を受けて、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じて役割分担を行っております。また資格取得に対して研修会を開催する等のサポート体制も整っております。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は特に定めておりません。入職前に1日職場体験を行い、すべてを見て頂いたうえで意思を確認しております。個々の能力に応じて役割分担を行っております。また資格取得に対して研修会を開催する等のサポート体制も整っております。	職員の募集は年齢、性別、資格、経験等の制限はなく、一日職場体験後に意思を確認して採用している。管理者は、職員が特技や能力を活かして、笑顔で生き生きと働ける環境作りに取り組んでいる。協力し合って勤務出来る働きやすい環境であるため、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会の開催、マニュアルにて職員の教育を行っております。入居者様に対する言動等を定期的に振り返り、気になる点については個別に面談を行い指導しております。	職員会議や内部研修会の中で、利用者の人権を尊重する介護の在り方を確認している。利用者一人ひとりの個性や生活習慣を尊重し、言葉遣いや対応に注意して、利用者がホームの中でその人らしく、安心して過ごせるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がステップアップできるように研修制度がございます。参加した職員が他の職員へ伝達講習を行うことで全職員が研修内容を理解できるよう努めております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、勉強会等に参加し情報交換にも努めております。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてご本人とお会いし傾聴しております。入居後は、職員が1名その方の担当につき不安を軽減できるよう努めております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に一度見学に来ていただけるようお願いしております。しっかり傾聴し、入居後も随時対応しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族より傾聴しますが、入居前に関わっていたサービス事業者からも情報収集しております。そのうえで今後の支援について検討しております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる事は一緒に」を念頭に置いて関係構築に努めております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会が比較的多いため、いらした時にご相談させて頂きながら支援の方向性を検討しております。毎月、お便りなどで近況報告も行なっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、写真付きのお便りをお送りしております。年賀状書きのお手伝いも毎年継続しております。そして、入居後も馴染みの美容室に行かれています方もいらっしゃいます。	家族や友人、知人の面会が多く、面会時には、ゆっくり過ごせる場所を提供し、必要時には職員が間に入り、懐かしい時間が過ごせるよう支援している。馴染みの場所へのドライブ、外食、美容室に家族の協力を得て出かける等、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が継続出来るよう取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力、居室ではなく共同フロアで過ごして頂き、交流の時間を作るよう支援しております。発語が困難な入居者様については職員が関わりを多く持つように努めております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方についてはお見舞いに伺い、ご家族にはお手紙を書くこともあります。死亡退去となった方については初盆で伺っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様それぞれに担当をつけております。ご本人の意向を伺い表情や仕草にも注意しながら全職員で情報を共有し把握しております。	日常会話の中から利用者の思いや意向を把握し、アセスメントに記録して職員間で情報を共有し、日常介護に反映させている。また、意向表出が困難な利用者には、家族と相談しながら、職員が利用者寄り添い、その表情や仕草から、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や交流会では積極的にお話をさせていただいております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細に記録に残すよう努め、全職員で情報を共有しております。今後の方向性について話し合いを行いその方にあった支援を心掛けております。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望等をもとに検討し介護計画を作成しております。主治医の先生に助言を頂くこともあります。	職員やケアマネージャーは、利用者や家族とコミュニケーションを取る中で、意見や要望、心配な事等を聴き取り、関係者の意見と併せて担当者会議で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の下段に日々の評価コメントがあり全員で記入しており、計画の見直しの際に参考にしております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事内容の変更や外出願望について臨機応変に対応できるように心掛けております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には極力参加出来るよう努めております。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や往診、外来受診で迅速に対応していただけなのでご家族さまも職員も安心しております。	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。現在、以前からのかかりつけ医の受診を継続している利用者は2名で、家族、主治医と情報の共有に努めている。ホーム協力医療機関への定期受診は管理者が同行し、緊急時には往診をお願いして、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を算定していない為看護職員は配置しておりません。協力医療機関先の看護師さんとは情報の共有はできております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様が混乱されないようにその方の情報をお渡しすると共に性格や詳細な情報について直接病院側はお伝えしております。退院時には、入院中の情報を頂き退院後の注意点等助言いただいております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や体調が悪化した際に、ご本人やご家族の意向確認を行っております。開設以来、看取りケアの実績はありません。現在は看取りの体制もっておりませんので重度化した場合は入院となる為少しでも長く健康的に過ごせるように支援しております。	契約時に、利用者、家族にホームにおける重度化や終末期の指針を基に方針を説明し、了承を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医を交えて方針を話し合い、利用者が1日も長くホームで暮らす事が出来るよう、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施しております。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時に避難場所については職員やご家族には周知しております。地域との協力体制については、一斉通報装置に携帯の番号を登録させて頂いてもらっています。有事にはご協力いただけません。	昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、1回は消防署の協力を得ている。一斉通報装置に地域の方の連絡先を登録して、いざという時には駆けつけてもらえる協力体制を整えている。また、災害時に備えて非常食や飲料水を準備している。	ホームが2階にあるため、特に職員が一人になる夜間想定訓練を繰り返す。近隣に住む職員や地域の方の具体的な協力体制を確認し、非常時に備えることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に職員の言動について、本社の職員が確認しております。その結果について、職員同士検討し改善につとめております。	利用者一人ひとりを尊重する介護サービスの在り方を職員が理解し、言葉遣いや対応に配慮している。法人全体で接遇教育に力を入れて、電話対応、挨拶、柔らかな言葉での声掛け等を徹底している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様によって意思表示が異なります。二者択一にしてみたり、表情から読み取ってみたりとご本人の希望を汲み取れるようつとめております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や表情に合わせて、入居者様が前向きになれるようお声掛けのタイミングや方法を工夫しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を心待ちにしている方がいれば、行きつけの美容室にご家族といかれる方もおられます。爪切りや髭剃りはお声掛けさせていただき、お手伝いが必要な方へは支援しております。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は厨房(委託業者)からの給食です。月に数回の手作りの日には入居者様のリクエストにお答えできるよう努めております。週一回のおやつ作りも楽しみにしている様子です。	昼食と夕食は厨房で委託業者による配食サービスを利用し、ホームで炊いた美味しいご飯を添えて提供している。利用者に食べたい物を聞いて月2回、職員手作りの料理を提供し、週1回のおやつ作りや外食レクと併せ、食べる事を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減(月1回)、食事量及び水分量、排泄状況(毎日)を観察しながら支援しております。糖尿病の方については、ご家族と相談させて頂きながら対応方法をきめております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しております。ご自分で出来ない方(義歯)の手入れについては、支援しております。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を用いて、その方の排泄パターンを把握するように努めております。出来る限りトイレでの排泄が出来るように努めております。	トイレでの排泄を基本としている。利用者の生活習慣や排泄管理表からパターンを把握して声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、職員は、利用者の腹部マッサージや水分摂取強化に取り組む、利用者の排泄がスムーズに行われるよう支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸剤等服薬してコントロールされている方が多い状況です。腹部マッサージや水分摂取強化等の対応も行なっております。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は週3回(火、木、土)で固定させて頂いておりますが、入浴時間については入居者様のご希望に添えるよう努めております。季節感を感じて頂けるように菖蒲湯や柚子湯等も取り組んでおります。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら週3回(火、木、土)を基本として実施している。湯船に菖蒲や柚子、香りの良い入浴剤等を入れる等、利用者職員が一对一でゆっくり関わりながら、入浴を楽しめるよう支援に努めている。また、現在、入浴を拒む利用者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中は活動的に過ごして頂けるように支援しております。入居者様のご希望時や体調不良時には居室で休んで頂いております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報については、いつでも職員が確認できるようにしております。日々の変化等については、介護記録に記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味活動を大切に、極力継続できるよう支援しております。植木の水やり、掃除や洗濯物を畳む等の役割をお願いしている方もいらっしゃいます。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるように定期的にドライブにしております。普段もおやつを買いに近くのコンビニエンスストアに行ったり、日用品の買い物や衣類と一緒に買いに行くこともあります。	天気の良い日には、近隣の散歩やコンビニへ買い物に出掛け、利用者の気分転換を図っている。また、3人ずつ3日に分けて、喫茶店におやつを食べに出かけたり、季節毎の花見やクリスマスツリーを見に行く等、季節を感じられる外出の支援にも取り組んでいる。家族の協力を得ての外出も楽しむ事が出来ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は施設でお小遣いをお預かりしておりますが、支払い時には極力入居者様にお金をお渡しして対応しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を繋いだり、時には入居者様から電話出来るように支援しています。毎年、年賀状も出せるようお手伝いしております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染症対策及び消臭対策にはちからを入れております。その他は、季節感を感じて頂けるようディスプレイを工夫しております。	ホームの美化活動に力を入れて取り組み、季節毎のディスプレイによって、利用者が居心地良く過ごせる清潔で明るい雰囲気のある共用空間である。また、アロマミストや空気清浄器を使用し、熱中症やインフルエンザ、感染症対策に取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブルスペース、ソファースペースをすることで自由に場所を洗濯できるように努めております。時には場所の取り合いにもなりますがそれも社会的刺激となり良い刺激だと思っております。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員がご家族と相談しながら必要な物を揃えたり、使い慣れたものの配置を検討しております。居室清掃時には入居者様と一緒にする事もあります。	電動ベッドとエアコンが備え付けである。入居時に利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や身の回りの物、家族や昔の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、本人が安心して過ごせる居室となるよう配慮している。また、換気や清掃を小まめに行い、清潔な環境を整えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に動きが出来るような環境設定をしております。できる事を日々支援させて頂いております。		